

第1章

日本・韓国青年親善交流事業

「日韓青年親善交流のつどいオンライン」

事業概要

<目的>

日本・韓国青年親善交流事業は、昭和59年の日韓両国首脳会談における共同声明の趣旨を踏まえ、昭和60年の日韓国交正常化20周年を機に、両国政府が共同して実施している。

本事業は、日本と韓国の青年の交流を通じて、青年相互の友好と理解を促進し、日本青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神のかん養と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青年による青少年健全育成活動等の社会貢献活動への寄与を目的としている。

令和3年度は、コロナ禍を巡る状況がいまだに予断を許さないことから、昨年度に引き続き、オンラインで開催することとした。

<実施概要>

本事業はオンラインにて実施した。

(1) ディスカッションテーマ及びサブテーマ

「ポストコロナ時代の日本と韓国の青年」

(サブテーマ)

- ジェンダー
- デジタル社会
- 環境

(2) 日本参加青年の参加資格(主なもの)

- 日本の国籍を有すること。
- 令和3年4月1日現在、概ね18歳以上30歳以下の者であること。
- 日本の社会、文化等について相当程度の知識を有すること。
- 韓国に対して関心と理解があること。
- オンライン事前研修、日本参加青年と韓国参加青年とのオンライン交流、オンラインによる事後研修、オンラインによる事業報告会の全日程に参加できる者であること。
- 国際協力等に高い参画意欲を持ち、事業終了後もその経験をいかして国際協力活動、国際的な社会

貢献活動等を活発に行うことが期待できる者であること。

(3) 参加青年人数

日本参加青年 12名

韓国参加青年 12名

(韓国参加青年は韓国側が選考)

(4) 日程

• 事前研修

➢ 1日目:令和3年10月24日(日)

➢ 2日目:令和3年10月31日(日)

※両日とも13:00~17:00で実施

• 韓国参加青年とのオンライン交流「日韓青年親善交流のつどいオンライン」

➢ 1日目:令和3年11月20日(土)

➢ 2日目:令和3年11月21日(日)

➢ 3日目:令和3年12月5日(日)

※全日程において、13:00~17:00で実施

• 事後研修

➢ 令和3年12月11日(土)13:00~17:00

• 事業報告会

➢ 令和4年1月16日(日)10:00~13:00

※日本・中国青年親善交流事業と合同で実施

※プログラム実施

内閣府との契約により、一般財団法人青少年国際交流推進センターが実施に当たった。

事業日程

<事前研修1日目>

令和3年10月24日(日)				
時間			時間枠	内容
13:00	～	13:10	0:10	オープニング
13:10	～	13:20	0:10	「日韓青年親善交流のつどいオンライン」についての説明
13:20	～	13:35	0:15	日本参加青年自己紹介
13:35	～	13:55	0:20	アイスブレイク
13:55	～	14:55	1:00	国際交流をはじめるとの意気込み共有
14:55	～	15:05	0:10	休憩
15:05	～	16:05	1:00	日韓交流の入門講座
16:05	～	16:25	0:20	韓国参加青年との交流に備えてのカジュアルディスカッション
16:25	～	16:35	0:10	グループ内での係決め
16:35	～	17:00	0:25	ディスカッションのサブテーマごとのグループ決め クロージング

<事前研修2日目>

令和3年10月31日(日)				
時間			時間枠	内容
13:00	～	13:10	0:10	オープニング、意気込み発表
13:10	～	13:30	0:20	係活動①
13:30	～	14:30	1:00	韓国事情に関する講義
14:30	～	14:50	0:20	韓国事情に関する講義 Q&A
14:50	～	15:00	0:10	休憩
15:00	～	16:10	1:10	韓国参加青年との交流に向けてのディスカッション
16:10	～	16:20	0:10	休憩
16:20	～	16:40	0:20	係活動②
16:40	～	16:50	0:10	事後活動について
16:50	～	17:00	0:10	クロージング

<韓国参加青年とのオンライン交流「日韓青年親善交流のつどいオンライン」 | 日目>

令和3年11月20日(土)				
時間		時間枠	内容	
13:00	～	13:20	0:20	開会式 挨拶(ビデオメッセージ) 韓国政府女性家族部 チェ・ソンユ青少年政策官 内閣府青年国際交流担当室 黒瀬敏文室長 参加青年代表挨拶 韓国参加青年代表 日本参加青年代表 スケジュール確認
13:20	～	13:30	0:10	オープニング
13:30	～	14:00	0:30	日韓参加青年自己紹介
14:00	～	14:10	0:10	休憩
14:10	～	15:00	0:50	お互いのライフチャート紹介
15:00	～	15:10	0:10	休憩
15:10	～	16:05	0:55	ディスカッション① ジェンダー1 ジェンダー2 デジタル社会1 デジタル社会2 環境1 環境2
16:05	～	16:15	0:10	休憩
16:15	～	16:20	0:05	日韓参加青年共作の交流ハンドブック紹介
16:20	～	16:50	0:30	韓国参加青年による文化紹介
16:50	～	17:00	0:10	クロージング

<韓国参加青年とのオンライン交流「日韓青年親善交流のつどいオンライン」 2日目>

令和3年11月21日(日)				
時間			時間枠	内容
13:00	～	13:10	0:10	オープニング
13:10	～	13:30	0:20	チェックイン
13:30	～	14:10	0:40	ディスカッション② ジェンダー1 ジェンダー2 デジタル社会1 デジタル社会2 環境1 環境2
14:10	～	14:20	0:10	休憩
14:20	～	15:00	0:40	ディスカッション③ ジェンダー1 ジェンダー2 デジタル社会1 デジタル社会2 環境1 環境2
15:00	～	15:10	0:10	休憩
15:10	～	15:40	0:30	日本参加青年による文化紹介
15:40	～	15:50	0:10	休憩
15:50	～	16:45	0:55	ホームグループミッションについての説明
16:45	～	17:00	0:15	クロージング

<韓国参加青年とのオンライン交流「日韓青年親善交流のつどいオンライン」 3日目>

令和3年12月5日(日)				
時間			時間枠	内容
13:00	～	13:05	0:05	オープニング
13:05	～	13:15	0:10	チェックイン
13:15	～	14:45	1:30	ディスカッションの成果発表及び質疑応答 ジェンダー1 ジェンダー2 デジタル社会1 デジタル社会2 環境1 環境2
14:45	～	15:00	0:15	講評 韓国政府女性家族部青少年活動振興課 内閣府青年国際交流担当室
15:00	～	15:10	0:10	休憩
15:10	～	15:55	0:45	ホームグループミッションの成果発表
15:55	～	16:05	0:10	休憩
16:05	～	16:50	0:45	振り返り
16:50	～	17:00	0:10	閉会式 挨拶(ビデオメッセージ) 韓国青少年活動振興院 政策企画理事 一般財団法人青少年国際交流推進センター 理事長 参加青年による手紙 韓国参加青年 日本参加青年

<事後研修>

令和3年12月11日(土)				
時間			時間枠	内容
13:00	～	13:05	0:05	オープニング スケジュール共有
13:05	～	13:10	0:05	内閣府挨拶
13:10	～	13:25	0:15	チェックイン
13:25	～	13:55	0:30	事業報告会について
13:55	～	14:25	0:30	事後活動について
14:25	～	14:30	0:05	提出物について
14:30	～	14:40	0:10	休憩
14:40	～	15:40	1:00	振り返りワーク①
15:40	～	15:50	0:10	休憩
15:50	～	16:40	0:50	振り返りワーク②
16:40	～	17:00	0:20	運営から日本参加青年へのメッセージ クロージング

<令和3年度日本・中国青年親善交流事業及び日本・韓国青年親善交流事業 事業報告会>

令和4年1月16日(日)				
時間			時間枠	内容
10:00	～	10:10	0:10	オープニング
10:10	～	10:50	0:40	令和3年度日本・中国青年親善交流事業 日本参加青年による報告
10:50	～	11:30	0:40	令和3年度日本・韓国青年親善交流事業 日本参加青年による報告
11:30	～	11:40	0:10	休憩
11:40	～	12:20	0:40	パネルディスカッション
12:20	～	12:40	0:20	内閣府青年国際交流事業概要説明
12:40	～	13:00	0:20	クロージング 日本青年国際交流機構(IYEO)からの講評 ファシリテーター総括 日本参加青年代表メッセージ

事業評価アンケート

I 趣旨

日本・韓国青年親善交流事業は、昭和 62 年度に開始された事業である。

本事業は、日本と韓国の青年相互の友好と理解の促進を図ることを目的とし、日本政府と韓国政府の共同事業として名称のとおり両国の友好の象徴として実施しているものである。

また、日本青年の育成の観点から、内閣府青年国際交流事業の共通の目的は「世界各国の青年との交流を通じて相互の友好と理解を促進し、国際的視野を広げ、国際協調の精神の醸成と次代を担うにふさわしい青年を育成する」ことであり、事業参加によりコミュニケーション力や異文化対応力等の能力向上が図られることをねらいとしている。

本年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインにより日本青年と韓国青年との交流プログラム「日本・韓国青年親善交流事業（オンライン）」を実施することとし、日韓参加青年同士のグループ別ディスカッション、文化交流、成果発表等を行った。

今回、本年度事業の成果を測るため、日本参加青年全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行うとともに、事前研修及び事後研修時に、能力向上等に関する自己評価の変化について比較調査を行った。

事業終了時のアンケート評価の数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。また、日本参加青年の自己評価の変化に関する比較調査については、他の調査との比較の観点から 6 段階評価（評価の高い方から6～1）を基本とした。

II 評価結果

1. 事業目的の達成度

①プログラムの満足度

「韓国青年との交流会（日韓青年親善交流のつどいオンライン）をどのように評価しますか」との問いに対して、日本参加青年全員が 5 段階評価の 4（良かった）以上を付け、非常に高い評価であった。

日本参加青年からは、「実際に現地に行かなければ、韓国青年と交流できないと思っていたが、オンラインで気軽に交流できて良かった。」「ホームグループミッションを始め、韓国参加青年と友好を築ける工夫がなされていて良かった。」「2 週間という短い交流期間で発表準備やミッションに追われ、みんなで協力して乗り越えられた。韓国参加青年と毎晩電話で作業したことは忘れられない思い出となった。」などのコメントがあった。

このことからオンライン上であっても、満足度の高い交流事業を実施できることが分かる。

②韓国青年等との相互理解と友好

「この事業を通じて、あなたと韓国の人々の相互理解が深まったと思いますか」及び「この事業を通じて、あなたと韓国の人々との友好が深まったと思いますか」との問いに対して、日本参加青年全員が 5 段階評価の 4（深まったと思う）以上を付け、非常に高い評価であった。

相互理解に関して日本参加青年からは、「ディスカッションでの意見交換やホームグループミッションでの積極的な交流を通して、お互いの意見を共有することで相互理解が深まった。」「日本と韓国は文化的に似ている部分が多いが、ディスカッションを重ねるごとに日韓の文化差を感じる機会も多く、それぞれの良さを感じることができた。」「交流会当日だけでなく、プライベートな時間に両国の文化や学生生活の話ができ、日本と韓国の共通点や相違点を知ることが出来た。」などのコメントがあった。

友好に関しては、「ディスカッションを通して韓国参加青年と仲良くなり、現在も連絡を取り合っている。」「個人的な話をする機会も多く持つことができ、日本人と韓国人という垣根を越えて、個人として交流ができた。」「韓国に住んでいる友人や妹ができた気分であり、今後も Zoom や直接会う約束もしているため、今後も交流を続けていきたい。」などのコメントがあった。

このことから、ディスカッションやホームグループミッションの時間に限らず、プライベートな時間でも交流する時間を持ったことにより、両国の学生生活についてなど、より身近な話題についても日韓の共通点・相違点を理解

する機会があったことが分かる。その結果、韓国青年等に対する相互理解と友好が深まったと考えられる。

③事前研修及び事後研修の満足度

「事前研修及び事後研修をどのように評価しますか」との問いに対して、日本参加青年全員が 5 段階評価の 4 (良かった) 以上を付け、非常に高い評価であった。

日本参加青年からは、「事前研修で韓国文化について知識を習得できたことにより、韓国参加青年との交流がスムーズに行えた。」「自分自身のことについて改めて考える機会があり、浮かび上がってきた課題や長所を事業の中で、成長させる・成長できたのかを考えることができた。」「事前研修で 7 週間の目標を設定し、他の参加青年に共有することで、常に目標意識を持って行動できた。事後研修では自分だけでなく、他の参加青年と共に成長できたことを実感できた。」などのコメントがあった。

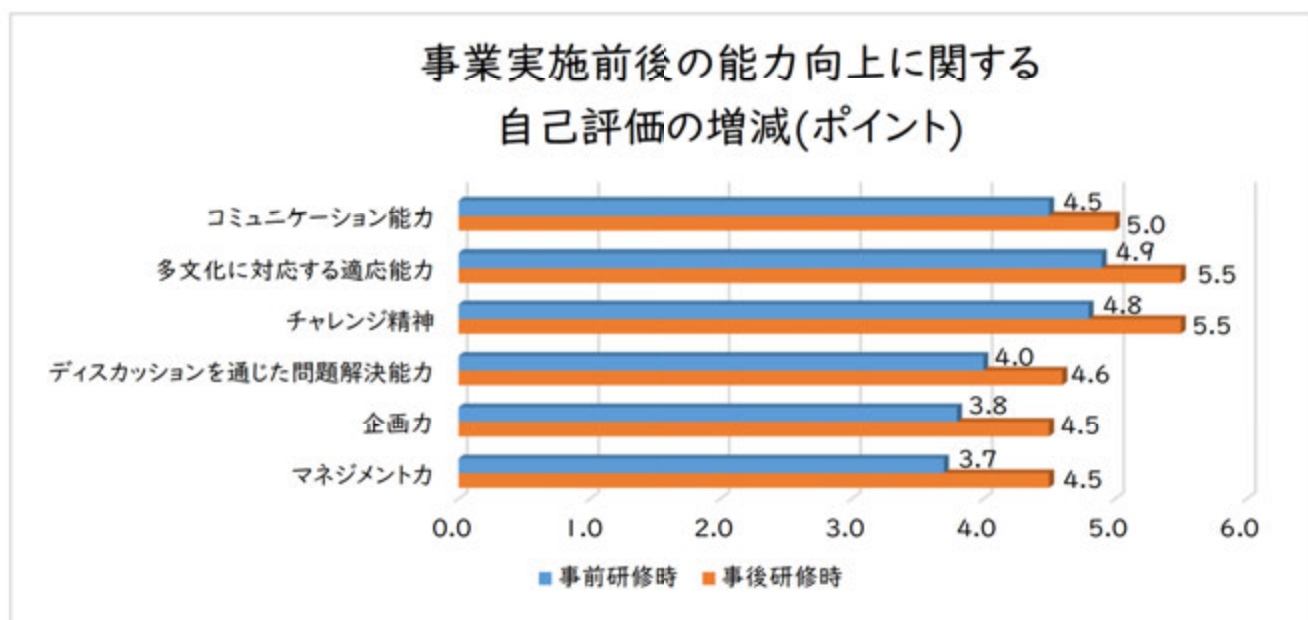
このことから、事前に韓国に関する講義が実際に韓国参加青年と交流する上で有益であったことや、事前研修で目標を定め、事後研修で振り返るといった一連の構造が参加青年の自己成長を大きく促したと考えられる。

2. 日本参加青年の成長

①個人の能力の向上

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での能力の成長の変化について 6 段階(6=十分備えている、5=備えている、4=ある程度備えている、3=あまり備えていない、2=備えていない、1=全く備えていない)による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

- ・「コミュニケーション能力」:
4.5 から 5.0 となり、0.5 ポイントの増。
 - ・「多文化に対応する適応能力」:
4.9 から 5.5 となり、0.6 ポイントの増。
 - ・「チャレンジ精神」:
4.8 から 5.5 となり、0.7 ポイントの増。
 - ・「ディスカッションを通じた問題解決能力」:
4.0 から 4.6 となり、0.6 ポイントの増。
 - ・「企画力」:
3.8 から 4.5 となり、0.7 ポイントの増。
 - ・「マネジメント力」:
3.7 から 4.5 となり、0.8 ポイントの増。
- (ポイント数については、小数第二位を四捨五入)



全ての項目において、事前研修時よりも事後研修時の方が自己評価の上昇が確認できる。なかでも、「マネジメント力」が 0.8 ポイント増と項目の中で最も伸び幅が大きかった。本事業ではディスカッションで韓国参加青

年と意見を交換し、異文化から来る考え方の違いに対処したことが要因と考えられるが、加えて、日本参加青年と韓国参加青年合同のグループ活動であるホームグループミッションにおいて、プログラム外の時間においても、積

極的に交流を重ね、限られた時間の中で与えられた課題を遂行するために、役割分担やスケジュール管理を韓国参加青年と合同で行ったこともマネジメント力の上昇の要因だと考察できる。

その他の項目も軒並み上昇していることから、本事業への参加が個人能力を伸ばすための手助けになっていることが分かる。

②個人の意識の変化

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での意識の変化について6段階(6=非常に思う、5=そう思う、4=ややそう思う、3=あまりそう思わない、2=そう思わない、1=全くそう思わない)による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

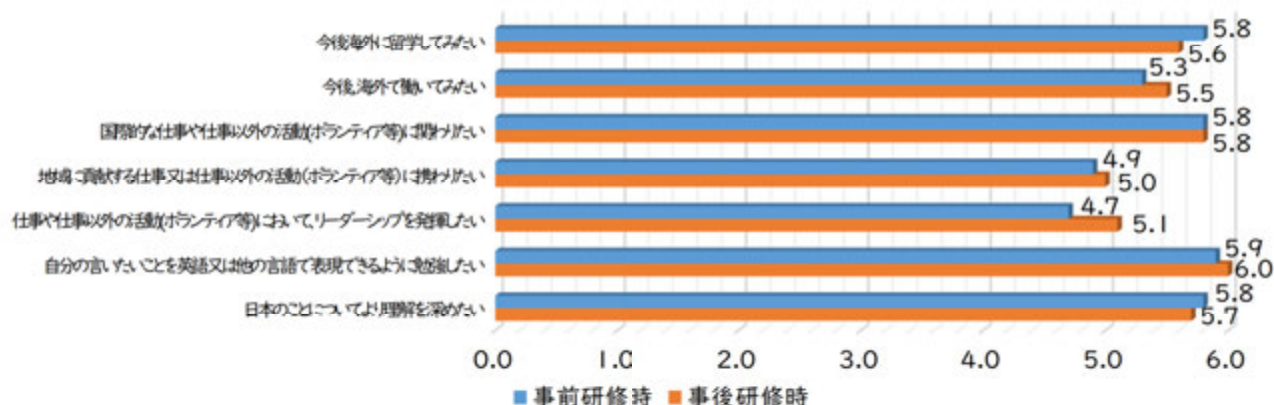
- ・「今後、海外に留学してみたい。」:
5.8 から 5.6 となり、0.2 ポイントの減。
- ・「今後、海外で働いてみたい。」:
5.3 から 5.5 となり、0.2 ポイントの増。
- ・「国際的な仕事や仕事以外の活動(ボランティア等)に関わりたい。」:
5.8 から 5.8 となり、増減なし。

- ・「地域に貢献する仕事又は仕事以外の活動(ボランティア等)に携わりたい。」:
4.9 から 5.0 となり、0.1 ポイントの増。
- ・「仕事や仕事以外の活動(ボランティア等)において、リーダーシップを発揮したい。」:
4.7 から 5.1 となり、0.4 ポイントの増。
- ・「自分の言いたいことを英語又は他の言語で表現できるように勉強したい。」:
5.9 から 6.0 となり、0.1 ポイントの増。
- ・「日本のことについてより理解を深めたい。」:
5.8 から 5.7 となり、0.1 ポイントの減。
(ポイント数については、小数第二位を四捨五入)

事業参加前から参加青年達の意識が高く、個人意識に大幅な変化は見られないが、「仕事や仕事以外の活動(ボランティア等)において、リーダーシップを発揮したい。」が0.4 ポイント増と上昇を見せた。

グループごとに役割分担を明確に定め、各自がリーダーシップを発揮する機会を設けたことにより、これまでリーダー経験が少なかった青年もリーダーシップを発揮する経験ができたことで、意識の変化が起きたと考察できる。

事業実施前後の能力向上に関する
自己評価の増減(ポイント)



Ⅲ 総括評価

最後に、アンケートから日本参加青年のコメントを抜粋し、今回の総括評価をまとめる。

「事業全体をどのように評価しますか」という問いに対して、日本参加青年全員が 5 段階評価の 4 (良かった) 以上の評価を付け、非常に高い評価であった。

日本参加青年からは、「チームで一つの課題に対して議論する学びと、ミッションを通して仲を深める楽しい活動が両立されていたのが良かった。」「交流事業を通じて韓国人の友人ができるだけでなく、韓国文化を知れて良かった。これらの経験が自分の生活や将来の行動を変えるきっかけとなった。」「オンラインでの開催であり、深い議論や友情を深め合うことが出来なかったと思っていたが、参加青年同士が交流できる時間が十分に取られていたため、想像以上に充実した交流ができた。」などのコメントがあった。

これらのことから、グループで活動する取り組みを充実させることによって、オンラインであっても参加青年同士の友好を深められた結果になったことが考察できる。

「事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲などを持ちましたか」という問いに対して、日本参加青年の 9 割以上が 5 段階評価の 4 (ある程度意欲を持った) 以上の評価を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「ディスカッションテーマについて調べたときに、多くの人々に貢献したい気持ちが強くなった。また異文化交流ができたことにより、日本だけでなく、世界に目を向けて社会問題解決に貢献したいと思った。」「韓国のアップサイクル技術を利用して、日本の環境事業を盛り上げたいと思った。」「国際交流事業の持つ力を感じ、この力を次世代に繋げていくことで、より発展した日韓関係を築くことができると思った。」などのコメントがあった。

これらのことから、韓国参加青年とのディスカッションの中で、両国の取り組みや現状を学んだことにより、社会問題に関心を持ち、社会貢献に対する青年達のモチベーションが上がったことが分かる。

「この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか」との問いに対して、日本参加青年全員が 5 段階評価の 4

(役立つと思う) 以上の評価を付け、非常に高い評価であった。

日本参加青年からは、「コミュニケーション能力を培えたことや、自分自身の潜在能力に気づくことができ、自己分析の大きなきっかけとなった。」「海外に目を向けることで視野が広がり、自分の固定観念に気づくこともできた。自分と自国についても向き合うきっかけにもなり、将来の目標を明確にする機会となった。」「日韓参加青年が集まって議論を行ったことで、改めて日韓関係を真剣に考えるようになり、本事業の影響で進路が定まった。」などのコメントがあった。

これらのことから、本事業で韓国参加青年と交流することを通して、国際的な価値観を身に付けることに繋がったと考察できる。自分自身の可能性に気づくことになり、将来の目標が定まったと感じる参加青年が多く生まれた結果となった。

本事業の目的である「日本と韓国の青年相互の友好と理解の促進」に関して、日本参加青年は、韓国への理解や交流プログラムに対して高い満足度を示している。同プログラムを通じて韓国参加青年との相互理解や友好が深まったという意見も多く、今後の日韓関係発展に寄与することを期待できる青年が多く生まれた。以上のことから、本事業の目的を十分に果たすことができたことと評価できよう。

